

せせら通信

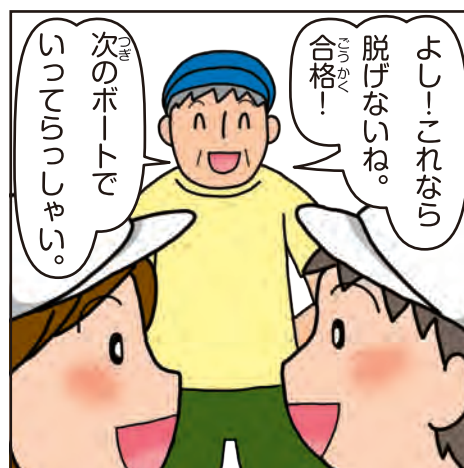


『矢場川 (旧川)』(足利市)



わたらせ川のふれあい館「せせら」は、
エコアールグリーンプラザ(渡良瀬グリーンプラザ)3階にあります。

水難事故防止 ライフジャケット編

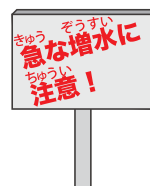


～川で安全に遊ぶために～

上流（じょうりゅう）に降（ふ）った雨（あめ）で川の水位（すい）が急に上昇（きょうじょう）することがあります。

川（かわ）に行く前に必ず（かならず）天気（てんき）や川の情報（じょうほう）をチェックしましょう。

遊び（あそび）に行った先（さき）でも天気（てんき）に気を配（くば）り、川（かわ）に関する看板（かんばん）があれば確認（かくにん）しましょう。



矢場川の思い出ばなし

公害やゴミの投棄で汚れてしまった矢場川を、かつての美しい川に戻すため、平成4年、「矢場川に清流を取り戻す会」を立ち上げ、川の清掃活動を開始。30年が経ち、川がきれいになった今も、「矢場川の清流を守る会」に名まえを変え活動を続けている。

お話しくださった「矢場川の清流を守る会」のみなさん



今から60年前、昭和38年頃までの「矢場川」は、湧き出た伏流水が流れる清流だったんです。私たちが子どもの頃の矢場川は、ウナギやナマズを捕って食べたり、泳ぎを覚えたり、川の楽しさと怖さを同時に学ぶ場所だったんですよ。

でもその美しい川も、高度経済成長期にはあっという間に姿を変えてしまったんです。家庭から流れ出る生活排水や捨てられるゴミが増えたほか、水質の良い矢場川の水が工業用水として多く使われるようになって、化学物質を含んだ排水もまた、矢場川に流れ込むようになってしまったからなんですよ。カエルやザリガニは水中から岸へ逃げ出し、川の中の水草は枯れ、逃げ場のない魚は息もできずに死んでしまったんです。

そこで、『このままではいけない。昔のようにアユの泳ぐ清流を矢場川に取り戻そう!』と、地域の人たちに呼びかけ、清掃活動を始めたのが今から30年ほど前です。このときは、大雨の中750名もの人が集まったんです。それから毎週日曜日、半年くらい、みんなで全身泥だらけになりながらゴミ拾いを続けましてね。集めたゴミを、川に浮かべたボートに山のように積みました。川がフェンスに囲われているところなんかは、よじ登って入りましたよ。川に降りられなくてフェンスからロープを吊り下げてジュースを差し入れてくれた人もいましたね。汚れた川は黒くて、まるでベルトコンベアーみたいに流れていたんですよ。水が黒いから川に物を捨てる人も、悪いという気持ちが薄れていたんでしょうね。ビニールやヘドロが何層にも重なり合って、70cmも積もっているようなところもあったんです。これを私たちは『矢場川昆布』なんて呼んでましたけど。地道に清掃活動を続けて、ボウフラが湧くようになったときにはみんなで喜びましたよ。ボウフラも住めないほどに汚れていたんですから。



ボートいっぱい積み込んだゴミ

そんな川の中に入っていると、化学物質のせいなのか、皮膚に発疹が出てしまうんです。履いていたジーパンなんて、1回で捨てなければならぬし、本当に大変でした。川が汚れ始めた当時は経済の発展も重要だったから仕方がなかったんだと思います。私たちも含めて、当時の大人たちは環境のことを考えるのを後回しにしてしまったんです。



ナガレコウホネの花が咲く矢場川（現在）

子どもたちから学ぶこともありますよ。あるとき、子どもたちが、一生懸命に矢場川のゴミ拾いをする姿を見て、「拾う」と「捨てる」という漢字は少ししか変わらないけど、大きな違いがあるなと、心があるかないかで環境は違ってしまうんだなと気づいたんです。ゴミは手で拾う物ではない、心で拾うものなんですよ。

いろいろな問題と向き合い、地域の人々と協力しながら活動が続け、今の矢場川は、アユの群れも見られるようなきれいな川になりました。だけど、私たちが子どもの頃と同じ姿とは言えないんですよ。大切なことは、清流を取り戻した今ある環境を、これからも守っていくことなんだと思います。

発行 国土交通省 渡良瀬川河川事務所 総務課 〒326-0822 栃木県足利市田中町 661-3 TEL.0284-73-5551
令和 5 年 7 月 発行